

# インフォメイトしよ

Vol.14  
April  
2017

## 【特集】

### 脳血管内治療のご紹介

最新の血管撮影装置を導入しました

病院機能評価の認定を受けました

公立昭和病院DMA T  
(災害派遣医療チーム)の活動について

第6回ブラック・ジャックセミナー  
を開催しました

第21回 市民公開講座



近年、脳神経外科の領域で脳血管内治療が盛んになってきています。従来の頭部や頸部を切り開いて行う開頭手術などの直達手術とは異なり、カテーテルという細長いチューブを用いて血管の中から行う治療です。当院地下1階の血管撮影検査室の台に仰向けになり、局所麻酔と鎮静・鎮痛薬点滴静注時に全身麻酔のもと、右下肢の付け根から約2〜3mm径のカテーテルを身体の中の血管に挿入して治療します。

次に紹介します疾患の治療は、安全性や確実性などを検討しながら、直達手術でなく血管内治療を行う機会が増えていきます。

### 急性期脳梗塞

脳の太い血管(内頸動脈、中大脳動脈、基底動脈)が突然閉塞すると意識障害や片麻痺、失語症など重篤な症状が出現します。救急搬送後にCTやMRI、血液検査などを行い、救済可能な脳組織が充分存在する場合は、積極的にカテーテル治療による血栓回収療法を行います。

これまでは、tPA静注療法を含めた点滴治療が主体で、閉塞部の再開通が得られないことが多かったのですが、吸引カテーテルやステントリトリバーという血栓捕獲デバイスの発達により、再開通率が85〜90%、自宅復帰率が5割ほどにまで改善しています。

### 脳動脈瘤

くも膜下出血を来した破裂脳動脈瘤や破裂リスクの高い未破裂脳動脈瘤など、動脈にできたこぶに対する治療です。当院で

### 頸動脈狭窄症

は、現在でも動脈瘤のくびの部分(頸部)にクリップをかけて血流を遮断するクリッピング手術が治療の中心です。

高齢者やほかの重症疾患を有するかなど全身麻酔のリスクが高い場合、また、動脈瘤の部位などからクリッピング手術よりも低リスクと判断された場合は、血管内治療によるコイル塞栓術を行います。極細のカテーテルを血管の中から動脈瘤の中に入れて、その中からプラチナ製の太さ0.3mm程度のコイルをこぶの中に巻いて充填することで、こぶの中への血流を遮断します。



最新の血管撮影装置での治療



## 脳血管内治療のご紹介

脳神経外科医長 吉河 学史  
前脳神経外科医長 石川 治

次のページにつづく

## 地域医療連携室だより!

### 医療ソーシャルワーカー(MSW)をご存知ですか?

公立昭和病院の地域医療連携室には医療ソーシャルワーカーが所属しています。MSW(Medical Social Worker)と略されることもあり、病院など医療機関に勤めるソーシャルワーカーで、社会福祉士等の専門的な資格を有しています。

当院のMSWは、医師、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士などと共に医療チームの一員として、主に入院・通院されている患者さんやご家族から、病気や、けがにより生じたご心配事について相談に応じています。社会福祉の専門職の立場から、相談を通して解決の糸口を見出し、安心して療養が継続できるよう支援しています。

■医療費や生活費について  
健康保険や生活保護の制度内容などについてご説明しています。ご加入の保険や年齢、経済状況により活用できる制度は異なります。

■制度利用について  
介護保険や身体障害者手帳等の各種制度について情報提供しています。

※MSWは、相談の内容に応じて、適切と思われる院内の他の職種に対応を引き継ぐことや、地域の医療・保健・福祉の関係機関との連絡・調整・紹介を行うなど、患者さん一人ひとりが転院先や在宅での療養生活を自分らしく続けることができよう、支援しています。



■転院  
国で定められた病院の機能分化において、医師から転院を勧められた際に、目的や患者さんの病状、医療処置の内容などに応じて、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟などをご紹介します。

■在宅療養  
自宅の生活を支えるために介護保険、訪問診療や訪問看護などの情報を提供しています。自宅退院の準備は、相談支援室の看護師も対応しています。

■本院で対応件数の多い相談内容をご紹介します。

## 《公立昭和病院の理念と方針》

### 【理念】

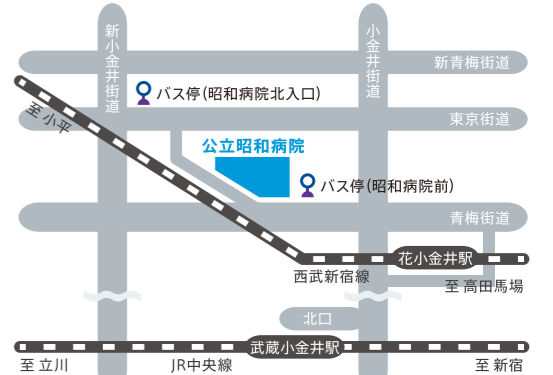
一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します

### 【方針】

- 1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
- 2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
- 3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
- 4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
- 5 信頼される優れた医療人を育成します
- 6 健全な病院経営に努めます

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、西東京市の7市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に答えています。

### Access



公立昭和病院 kouritsu-showa.jp

〒187-8510 東京都小平市花小金井8-1-1  
tel.042-461-0052 fax.042-464-7912



当院では、現在でも頸部皮膚を切開して頸動脈のプラークを摘出する頸動脈内膜剥離術が治療の中心です。動脈瘤と同様に、全身麻酔だとリスクが高い場合や、病変的に直達手術よりも安全性が高い場合は、血管内治療によるステント留置術



### 最新の血管撮影装置を導入しました

放射線科

平成29年2月に血管内治療に最適なバイブレーション血管撮影装置「Artis QBA Twin」(ドイツ・シーメンス社製)を導入しました。

この装置は、同時に2方向からの透視・撮影が可能で、検査時間の短縮、造影剤使用量の低減が図れます。大型のX線検出器フラットパネルディテクタ(FPD)・高精度ハイパワーX線管を備えていることが特徴で、高精細な画像をより低被曝で撮影することが可能になりました。

また、巡回機能付C-アームシステムを採用しており、患者さまを乗せ換えることなく、頭頂から足先まで、180cm以上の透視・撮影にも対応できます。

さらに、最先端技術を用いたアプリケーションを数多く搭載しており、従来では、C-T装置でしか得ることができなかった断面画像(コーンビームCT)や3次元画像(3D)も撮影可能で、特に、脳梗塞における血栓回収療法や脳動脈瘤治療における血管内コイル塞栓術等の高度な治療は、今以上、より安全・迅速に行うことが可能になりました。

放射線科では、最新の装置を有効に活



平成29年2月に導入したバイブレーション血管撮影装置(Artis QBA Twin)



### 病院機能評価の認定を受けました

当院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価審査(3rd Generation)を受審し、平成29年2月に認定証(下写真)と、認定シンボルマーク(4頁下図)の発行を受けました。

病院機能評価とは、病院が組織的に医療を提供する基本的な活動(機能)が、適切に実施されているかを第三者機関によって、中立・公平な立場から評価する仕組みで、医療の質の向上を図ることを主な目的としています。

審査は、各専門領域(診療・看護・事務管理)の知識と経験を有する評価調査者(サーベイヤー)が、患者中心の医療の進歩、良質な医療の実践など、病院の活動状況を各評価項目ごとに行いました。

当院の評価は、ほとんどの項目が水準以上で、特に地域の医療教育・啓発活動、円滑な入院体制整備の点では、高い評価を受けました。

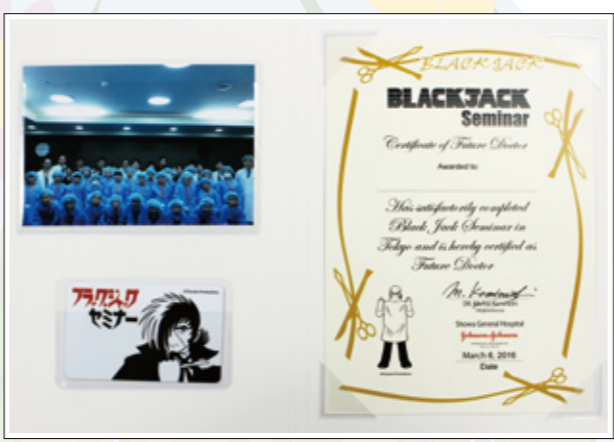
今後も認定病院として、病院機能の改善・充実に努め、より一層信頼される病院づくりを目指してまいります。



### 第6回ブラックジャック・ジャックセミナーを開催しました

3月5日(日)に当院で、子どもたちに医療体験を提供する「ブラックジャックセミナー」を開催しました。このセミナーは、「将来の医師を育てる」ことを目標に、医師を志すきっかけの一つとなることを願って開催するもので、第6回の今回は、小金井市・東久留米市・清瀬市・西東京市立の小学校4・5年生(現5・6年生)を対象に、多数の応募の中から抽選で26名の児童が参加しました。

当日は手術着に着替え、医師や看護師、医療技術者の指導、サポートを受けながら、皮膚の模型を縫う「手術縫合体験」、モニターを見ながら大小のビーズを右から左へ移す「内視鏡トレーニング体験」、外科手術機器の超音波凝固切開装置を使って鶏肉を切除する「超音波メス体験」、黒く着色した寒天の中のものを超音波検査装置を使って当てる「エコー体験」など、様々な



ブラックジャックセミナー修了証

医療体験のほか、検査技師からMRI装置の詳しい説明を聞くなど病院の施設を見学し、最後は、病院長より終了証が授与されました。



### 公立昭和病院DMAT(災害派遣医療チーム)の活動について

DMAT業務調整員 井部昌彦

DMATとは  
平成28年4月の熊本地震、同年10月の鳥取県中部地震は記憶に新しいところですが、首都直下地震発生の確実性も指摘されています。公立昭和病院などの災害拠点病院では、大地震などの自然災害をはじめ、テロ災害や大規模事故などの都市型災害の災害急性期の現場に、機動性を発揮して救命処置などを行う災害派遣医療チーム「DMAT」(Disaster Medical Assistance Team、ディーマット)を組織し、専門のトレーニングを受けた医師、看護師、業務調整員、医師・看護師以外の医療職及び事務職員)の4〜6名で1チームを構成しています。

東京DMATと日本DMAT  
東京都は、平成16年4月に「東京DMAT」を、厚生労働省は、平成17年4月に「日本DMAT」をそれぞれ発足しました。

東京DMATは、地域(局地)災害に備えた独自制度(組織)で、東京消防庁と共に災害発生現場で、傷病者の医療救護などに当たるのが主な活動内容です。日本DMATは、広域災害・激甚災害に備えた自己完結型の災害医療チームで、全国の日本DMATが連携し組織的な活動を行います。

### 公立昭和病院DMATの活動

当院は、平成9年2月に災害拠点病院の指定を受け、平成19年3月に東京DMAT指定病院、平成23年2月に日本DMAT指



防災訓練に参加するDMAT隊員と災害時医療支援車(東京DMATカー)

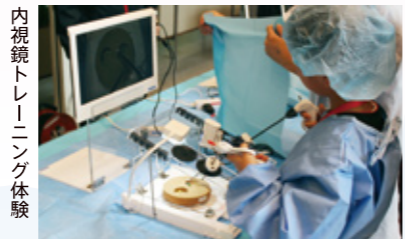
定病院となりました。現在、東京DMAT隊員数(カッコ内は日本DMAT隊員数)は、医師9(5)名、看護師21(3)名、業務調整員9(2)名の総勢39(10)名で、各隊員は、地域の防災訓練や技能維持研修に参加し、日々鍛錬を重ねています。東日本大震災では、宮城県と福島県に述べ7名の隊員が派遣され、被災した病院支援、被災地外への患者搬送を行いました。また、当院には、東京DMATカー(左写真)が配備されており、近隣で発生した大事故にも出動しました。

平時に日常業務を行っているDMAT隊員は、災害発生時には、いつでも出動できる態勢をとっています。災害は起きないことが一番ですが、日頃から準備を行い、「一人でも多くの命を救う」ことを念頭に全隊員が活動しています。

多くの皆さんのお越しをお待ちしています。



東村山市公式キャラクター「ひがっしー」



手術縫合体験

内視鏡トレーニング体験

超音波メス体験

エコー体験

公立昭和病院  
第21回 市民公開講座

日時 平成29年6月17日(土)  
開場: 10:00~  
講演: 10:30~12:00

場所 東村山市中央公民館  
(西武新宿線 東村山駅東口徒歩2分)  
駐車場はございませんので来場の際は、電車・バスをご利用ください。

第1部 ヒロリ菌と胃癌と内視鏡治療  
公立昭和病院 内視鏡科部長 武田 雄一

第2部 胃癌と共に生きる~胃癌の外科治療と化学療法について~  
公立昭和病院 外科・消化器外科部長 吉澤 奈央

第3部 認知症について~治る認知症もあります~  
緑風荘病院院長 酒井 雅司

(お問い合わせ)  
公立昭和病院 医事課 医事管理係  
042(461)0052(代) 内線 2171  
東京都小平市花小倉井 8-1-1

主催: 公立昭和病院 共催: 東村山市医師会 後援: 東村山市